

新春に祈る 夢の実現に向って

新年あけましておめでと〜ございます。

本年の常楽寺の『新春初護摩法要』は、スポットライトに照らし出され、鮮やかに浮かび上がった山門を、大勢の方々がかくくつての、新春初護摩法要となりました。

大晦日は、朝から強い季節風が吹き荒れ、夜の焚き火や万燈会が心配されました。天気予報でも、「日本列島を大きな寒気団が襲い、日本海側から山間地は大雪で、所によつては一メートルを超え、大雪が予想され、太平洋側は、強烈な季節風が吹き荒れる。」と報じていました。

毎年、大晦日の晩には、「除夜の鐘」の行事を進めるのに、大きな焚き火を囲んで暖をとりながら、順次鐘を打ち鳴らすのが慣わしです。深夜、外気

の冷え込む中で、打ち鳴らす鐘の順番を待つのに、焚き火は何と言つても不可欠です。本堂に祈るような思いで、日の沈むのを待ちました。

幸運なことに、夕暮れと共に風も次第に治まり、夜に入るとほとんど風を感じないほどに静まり、大きな焚き火を囲んで暖をとることが出来ました。テレビやラジオでは、山や日本海側は大変な大雪に見舞われ、各地で交通機関が混乱し、大雪の被害が続出した。」と報じていました。

それにしても、本年の常楽寺の年越しの行事は、幸いなことに大勢の人たちに支えられ、境内の通路に沿つて点灯された、沢山の灯明に彩られ、幻想的な雪囲気の中、焚き火で暖をとりながら百八の梵鐘を打ち鳴らす事が出来ました。

新しい年を迎えた午前零時、皆さんが本堂に集

まり『初護摩法要』の護摩を焚いて、「新しい年が平和で、総ての人々にとって、豊かで幸せにみちた年になりますように。」と祈念いたしました。

それにしても、常楽寺の境内「うすさま明王堂」の北側にそびえ立つ、一本の大木（メタセコイヤの木）は、今から四十年前に母が、押し木をして育てたものです。今では、どこから見ても寺一番の高い木に成長して眺めることができます。

この木と同じように、常楽寺も、道徳徒の皆様と共に力を合わせ、少しずつ少しずつではあります、境内を整え、伽藍を建立して、今日のようにな姿に変わってきました。

『念ずれば花開く』と云う言葉があります、夢を持って一歩一歩の努力を積み重ねれば、やがていつの日にか夢は必ず実現することでしょう。一年は、三百六十五日、皆さん一人ひとり、それぞれ夢を抱いて、その夢に向かって努力する、

常楽寺
だより

22.1.4

それは、大地に根付いた樹木が、休み無く成長するように、日々怠ることなく努力を重ねることが、夢を実現する、何よりの保障です。

皆さんが、初護摩法要に祈願した願いも、その願いをしっかりと胸に抱いて、一日一日その願いに向かって努力を積み重ねることが肝要です。この一年頑張りて行きましょう。

ここからの予定

山門建立記念除幕 一月二十八日（金）

山門建立に寄せられた貴重な浄財の寄進者名及び口数を記録し、同時に記念碑の裏面に、本尊十二面観音様の慈悲の心「慈悲心」と大書した記念碑です。役員さんの参加のもと除幕します。

御分の豆まき行事 一月三日（水）

一月の「節分会」は、本年も午後二時から菩提寺常楽寺本堂で、法要・豆まきの行事を行います。